

秋の沖曳網によるヒウオ混獲状況調査

久米弘人

1. 目的

秋に操業される外来魚採捕を目的とした沖曳網漁業にヒウオが混獲されることから、その混獲状況や採捕されたヒウオの特徴等を調査した。

2. 方法

平成30年11月1日に、調査は外来魚採捕を目的とした沖曳網漁船を備船し、野洲市菖蒲沖、大津市真野沖、沖島沖で実施した(図1)。採捕に用いた沖曳網は、図2の網に片側200mのロープで曳網し、その速度は0.3～0.4m/秒であった。曳網は菖蒲沖で3回、真野沖で2回、沖島沖で2回行った。混獲されたヒウオは曳網ごとに尾数、体型を測定し、一部は耳石を取り出し、その日周輪からふ化日

を推定した。なお、真野沖以外のヒウオは、他魚種や水草等の混在した全体から一部を取り出し、重量割合によりその中のヒウオの尾数から全体の尾数を推定した。

3. 結果

調査したすべての地点でヒウオの混獲が確認されたが、推定採捕尾数は、1曳網あたり599尾から32,475尾と大きく変動した。平均体長は22.6mmから25.0mmで全体の平均は23.9mmとなった(表1)。ふ化日については、210個体から耳石を取り出して、推定したところ、9月4日から10月5日までにふ化したヒウオが採捕され、9月生まれが全体の94.3%であった(図3)。

<調査地点>

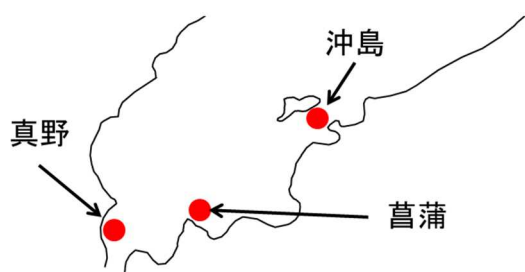


図1 採捕地点位置図

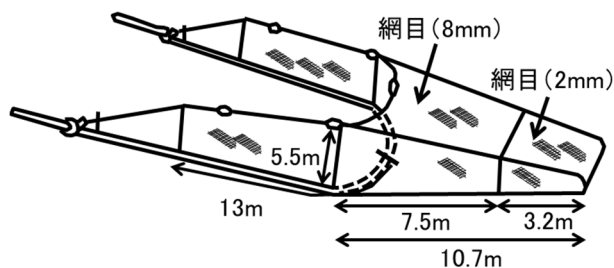


図2 調査に用いた沖曳網

表1 ヒウオ採捕結果

	採捕尾数	平均体長(mm)	標準偏差
菖蒲1	9,361	22.6	3.2
菖蒲2	7,582	24.0	3.5
菖蒲3	32,475	24.2	3.1
真野1	1,866	25.0	4.1
真野2	599	23.0	4.4
沖島1	7,444	24.2	2.8
沖島2	13,966	24.3	4.5
全体	73,293	23.9	3.6

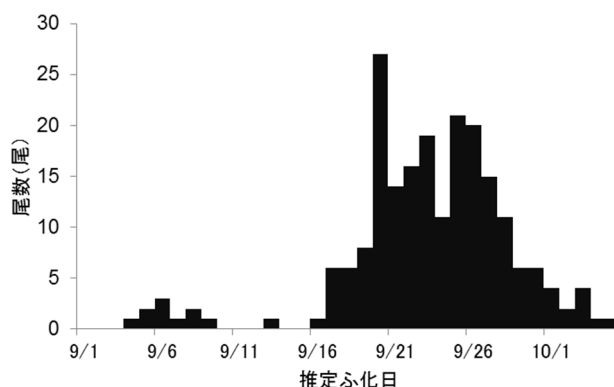


図3 沖曳網で採捕されたヒウオのふ化日組成 (N=210)